

食品、化粧品、トイレタリー、医薬品などの原材料

レスベラトロール、エラスチンなど、生物由来有用成分・素材の国内市場を調査

- 2016年予測(2010年比) -

生物由来有用成分・素材：1,316億円(109.7%)「高齢化」「免疫賦活」対応を訴求し拡大

高成長市場：レスベラトロール(312.5%)、エラスチン(172.7%)、プラセンタ(153.3%)

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、植物や動物由来の有用成分・素材及び合成の有用成分・素材の国内市場を調査した。その結果を報告書「2011年版 生物由来有用成分・素材市場徹底調査」にまとめた。

生物由来有用成分・素材は、食品、化粧品、トイレタリー、医薬品などの原材料に使われている。この調査では、植物系(アガリクス、アスタキサンチンなど)32品目、動物系(DHA、コラーゲンなど)13品目、合成(L-オルニチンなど)5品目の計50品目の各市場について、現状を分析し今後を予測した。

また、GPCをはじめとして需要拡大が期待される成分・素材10品目についても、その概要と今後の方向性をまとめた。

<調査結果の概要>

1. 生物由来有用成分・素材

2010年	2011年見込	2016年予測	16年/10年比
1,200億円	1,229億円	1,316億円	109.7%

生物由来有用成分・素材市場は、年率3~4%の成長を遂げてきた。高齢化社会の進展、メタボリックシンドローム予防・改善意識の高まり、食品や化粧品への採用増加などが市場拡大の追い風となっており、2006年には1,000億円、2008年には1,100億円を突破し、2010年には1,200億円に達した。

2011年は、前年比2.4%増の1,229億円が見込まれる。東日本大震災の影響を受け一時的な販売停止や需要減少が生じ若干伸びが鈍化するものの、引き続き成長を維持する見通しである。2016年には2010年比9.7%増の1,316億円が予測される。

2016年に2010年比2桁以上の市場拡大が予測される品目として、レスベラトロール、エラスチン、プラセンタなど「今後の成長が期待される成分・素材」、アスタキサンチン、MSM(メチルスルフォニルメタン)、DHAなど「主要訴求機能に加えて新規訴求機能によって再需要が期待される成分・素材」が挙げられる。

そのほか、大豆イソフラボン、セラミド、ヒアルロン酸など多くの品目が「主要訴求機能における定番として、認知度が高い成分・素材」と言えるもので、安定した成長が予測される。

今後、「アンチエイジング」と「美容」、「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)対策」と「関節対応」、「抗疲労」、「脳機能改善」、「長寿遺伝子の活性」など高齢化に対する機能訴求や、新型インフルエンザなど外的要因からの防御を訴求した「免疫賦活」に対する機能訴求といった展開が活発化すると考えられる。

一方、更なる市場拡大を図るためには、将来消費者となる若年層の健康意識を高めることも必要と言える。

2. 用途別内訳

2011年の市場を用途別で見ると、食品分野が942億円(構成比:77%)、医薬品・医薬部外品分野が1

7.8億円（同1.4%）、化粧品・トイレタリー分野が9.5億円（同8%）と見込まれる。

用途	2011年見込	構成比
食品分野	9.42億円	7.7%
医薬品・医薬部外品分野	1.78億円	1.4%
化粧品・トイレタリー分野	9.5億円	8%

食品分野では、サプリメントを始めドリンクや粉末飲料、菓子、清涼飲料、加工食品などに応用されている。近年、メーカーではサプリメントやドリンクといったリピート需要の獲得しやすい商品へ注力度を高めている。

医薬品・医薬部外品分野では、眼科手術補助剤、関節機能改善剤、点眼薬、乾燥性皮膚の治療薬、育毛剤、泌尿器系トラブル改善商品などに応用されている。

化粧品・トイレタリー分野では、スキンケア、ボディケア、ヘアケア商品などに応用されている。配合量が少ないため市場全体に占める構成比は低いものの、この分野に採用されることで成分・素材自体の認知度が高まり他分野へ効果が波及する、という傾向もみられる。

<注目市場>

1. レスベラトロール【植物系】

2010年	2011年見込	2016年予測	16年/10年比
8億円	1.6億円	2.5億円	312.5%

レスベラトロールは、ブドウの果皮部・新芽、赤ワイン、ピーナッツの薄皮などに含まれるポリフェノールの一種で、植物が紫外線、病害などの外部ストレスに晒された際の自己防衛を目的とした生体防御物質である。剤形はエキス末が中心で、抽出由来物によって内容成分や含有量、色が異なる。

抗酸化訴求素材としてレスベラトロールが注目されてきた中、2011年6月にテレビ番組で長寿遺伝子の活性化素材として取り上げられたことによって、認知度が高まっている。市場も前年比2倍の1.6億円と急拡大が見込まれる。用途は全て食品分野となっており、抗酸化などで健康維持を訴求したサプリメントが中心である。

今後、レスベラトロールを採用した商品数が増加していくことで、2016年の市場は2.5億円が予測される。これは2010年比3倍以上となり、今回の調査対象品目の中で最も高い伸長率となっている。

2. エラスチン【動物系】

2010年	2011年見込	2016年予測	16年/10年比
1.1億円	1.3億円	1.9億円	172.7%

エラスチンは、細胞外で働く線維状のタンパク質で、ヒトの皮膚や靭帯、血管壁など弾力性や伸縮性を要する器官に分布している。主な生理機能は肌状態改善や保湿といった美肌作用であるが、加齢に伴って体内量が減少していくため、その摂取需要がある。剤形はエキス末であり、魚由来（カツオやマグロの動脈球など）と豚由来（血管）がある。魚由来が主流となっている。

2006年にエラスチン配合の美容ドリンクが発売されたことを契機に美容素材としての認知度が高まり、市場が本格的に形成された。2011年は前年比18.2%増の1.3億円が見込まれる。

用途としては、美容ドリンクやサプリメントなど食品分野が3割、美肌を訴求した基礎化粧品やメイクアップ化粧品など化粧品・トイレタリー分野が7割とみられる。美容ドリンクやサプリメントでは副剤として、コラーゲンやヒアルロン酸、プラセンタなど他の美容素材と組み合わせた採用が多い。

参入メーカーは、美容素材としての展開に加えて、エイジングケアやスポーツフーズといった新規用途の提案を行っている。また、近年では血管機能強化作用なども確認されており、生活習慣病対策素材としての需要拡大も期待されている。2016年の市場は、2010年比72.7%増の1.9億円が予測される。

3. プラセンタ【動物系】 注：植物由来は対象外

2010年	2011年見込	2016年予測	16年/10年比
3.0億円	3.6億円	4.6億円	153.3%

プラセンタは、アミノ酸、核酸様物質、ビタミン、ミネラル、酵素、ムコ多糖類などの栄養素を豊富に含んでいるほか、細胞の増殖・分化を促進する各種成長因子も含有している。原料は、豚や馬の胎盤由来、サケの卵巣膜由

来で、剤形はエキス末と液体である。食品分野や化粧品分野の用途では、豚胎盤由来が主流となっている。医薬品分野では、ヒト胎盤由来の使用が認められている。

体感性の高い内外美容素材としてプラセンタの認知度は高まっており、食品分野や化粧品分野での採用が増えている。2010年は前年比11.1%増の30億円となり、2011年も同20.0%増の36億円が見込まれる。

用途別に見ると、食品分野が4割強、医薬品・医薬部外品分野が3割強、化粧品・トイレットリー分野が2.5割とみられる。食品分野では、美容を訴求したサプリメントやドリンク、パウダーなどの健康食品、ゼリーやアイスバーなどの一般食品に採用されており、中でも美容ドリンクでの採用が増加している。医薬品分野では、更年期障害や乳汁分泌不全、肝機能改善の医療用医薬品（注射薬）として保険適用されている。化粧品・トイレットリー分野では、美肌や美白を訴求した商品での採用が中心となっている。

引き続き幅広い分野で採用が活発化する見通しで、2016年は2010年比53.3%増の46億円が予測される。現状では美肌訴求が中心となっているが、更年期障害改善、精神安定、抗光老化、鎮痛など様々な訴求機能を活かした提案が進めば、市場はさらに拡大していくと考えられる。

<調査対象>

植物系	MSM、 - グルカン、アガリクス・ブラゼイ・ムリル、アスタキサンチン、明日葉、イチョウ葉、ウコン、カシス抽出物、ギャバ、桑葉、コタラヒムブツ、植物性ステロール、セラミド、大豆イソフラボン、テアニン、トコトリエノール、納豆菌培養エキス、ニンニク抽出物、ノコギリヤシ、ハナピラタケ、ビルベリー、フコイダン、フコキサンチン、ホスファチジルセリン、マカ、松樹皮抽出物、メシマコブ、リコピン、緑茶抽出物、ルテイン、霊芝、レスベラトロール
動物系	DHA、アンセリン・カルノシン、エラスチン、核酸、キトサン、グルコサミン、コラーゲン、コンドロイチン、スクワレン/スクワラン、ヒアルロン酸、プラセンタ、プロポリス、ローヤルゼリー
合成	L - オルニチン、L - カルニチン、L - シトルリン、 - リポ酸、コエンザイムQ10

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業、関連団体などへのヒアリング調査

<調査期間>

2011年6月～9月

以上

資料タイトル	: 「2011年版 生物由来有用成分・素材市場徹底調査」
体 裁	: A4判 273頁
価 格	: 99,000円 (税込み103,950円) 電子版セット価格 119,000円 (税込み124,950円)
調査・編集	: 富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部 TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/